

〔科目名〕 卒業研究				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 卒業研究科目	
〔担当者〕 大森 史博						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 哲学の諸問題、および隣接する主題領域に関する研究と論文の作成							
〔演習内容〕 時間論、言語論、知覚論、存在論、芸術論、自我論、その他、隣接する分野を主題領域とする哲学の研究。 研究テーマについては、人物、著作、思想、概念、等、それぞれが自身の関心に基づいて、対話をかさねながら焦点化することを目指してゆく。 春学期は、それぞれの関心に応じて基本となる文献を探索し、ていねいに読み解くことを進める。これをとおして、対話をかさね、思索をふかめて、研究テーマの焦点を探る。秋学期は、担当教員の指導を受けながら、研究論文を執筆することが具体的な作業となる。 授業の各回をとおして、研究テーマを設定する手がかり、文献・資料の探索と収集、註や参考文献の作法、全体の構成と目次の作成、といった論文作成の基礎と具体的な方法を教示する。研究と論文作成をおこなう上での困難の克服や解決の方策について共に考えてゆく。							
〔科目の到達目標〕 哲学の基本文献や学術論文を読み解くことにより、そこで主題化される思想、主要な概念、核心にある問いを知る。そうした思想や概念をふまえて、自らが問うべきテーマを吟味し、考察を深め、形式を備えた文章表現として仕上げる。自らの問いを提示し、探求的な対話の場において質疑応答する。							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔前提条件〕 担当教員が開講する授業（哲学Ⅰ、哲学Ⅱ、教養特殊講義Ⅱ、名著講読演習、教養演習）のうち、いずれか1科目以上を履修していること。							
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 先行研究の文献探索をふまえた「構想発表」、研究の過程と論文執筆の進捗を報告するための「中間発表」、および提出の「研究論文」と口頭での「研究発表」を総合的に審査し、評価する。							
〔教科書等〕 デカルト『方法序説』（邦訳書が複数ある。） その他、授業のなかで紹介する。							
〔実務経歴〕 該当なし							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル							
時期	テーマと内容						
4月 から 6月	デカルトの『方法序説』を精読し、質疑応答をおこなう。これをとおして、参加者の各々は、自分の問い、研究テーマを焦点化していく手がかりを求める。						

7月 から 8月	参加者各々の関心に応じて、研究テーマを定め、基本文献および参考文献を探索する。文献の読解を進めることにより、自身の研究テーマと問題設定の先鋭化をめざす。
9月 から 10月	他の哲学系演習科目の履修者とともに合同の研究会をおこなう。参加者の各々は自分の問いを示して吟味し、相互に探求的な哲学対話を試みる。卒業研究の履修者は、この場において研究の「構想発表」をおこなう。
11月 から 12月	「中間発表」をおこなう。以後、「研究論文」の執筆に関して、担当教員の指導を受けつつ推敲を重ね、仕上げることをめざす。
1月 から 2月	執筆した「研究論文」について口頭での「研究発表」をおこない、質疑応答する。